



◆◆◆ 本年度会長方針 ◆◆◆

『会わなければ始まらない!『Face to Face!』』

例会日/毎週月曜日 12:30～13:30
 例会場/広島サンプラザ TEL (082) 278-5000
 会長/高尾 昌二 幹事/松本 猛

事務局

〒738-0015 広島県廿日市市本町5番1号
 廿日市市商工保健会館4F
 TEL (0829) 31-5490 FAX (0829) 31-5491
 E-mail / office20@h-hrc.com
 URL / http://www.h-hrc.com/

第906回 広島サンプラザ 2016年7月4日

会長時間

会わなければ始まらない!

『Face to Face!』

会長 高尾 昌二

いよいよ、広島廿日市RCは22年目に入りました。

そして、本日が、私が会長に就任して初めての例会でございます。

皆様、改めて、これから1年間どうぞよろしくお願いいたします。

今年度の会長テーマは、会わなければ始まらない!『Face to Face!』です。

今年度、例会の出席は勿論、奉仕活動・親睦事業の全てにおいて会員同士が「会う」機会を出来るだけ増やしコミュニケーション・交流の充実に重点を置いてまいりたいと思います。

また、新年度スタートにあたり、各担当の理事役員の皆様には、クラブの活性化と適切な運営に向けた様々な施策を考えていただきありがとうございます。

今月から、正に、RCの会長任期がスタートしたというわけですが、自分自身が経験不足であることは勿論のこと、本当に1年間会長としてお役に立てるのだろうかとても不安な気持ちになりました。

そういう時には、私は本屋に行くことにしています。本屋の店内を歩き直感的に目に飛び込んできた本を買って救いを求めることにしています。

この度、目に飛び込んできた本は『ラグビー日本代表を変えた「心の鍛え方」』という本を読みました。

この著者は、荒木香織さんという方で、2012年～2015年ラグビー日本代表のメンタルコーチを務めた方です。

あの五郎丸選手の「ルーティン」を一緒に考えた方だそうです。

非常に薄い本でしたので、すぐに読めたのですが、あの五郎丸選手のポーズは、げんかつぎでもおまじないでもなく、簡単にいうと、試合中、あの独特のポーズを始めたら、キックが終わるまでの間、回りの観客の声援も、気温の高い低いも、相手チームとの点差も、プレッシャーも全てが頭から消えて・・・ポーズを始めると、気付いたら8歩進んで蹴り終えている・・・という状態になるらしいです。

その他に、プレッシャー・・・ストレスがかかった時の対処の仕方についても書かれていました。

たとえば、自分が車を運転していて、後ろからいきなりクラクションを鳴らされたとして、バックミラーを見たら、サングラスをかけた怖そうな男の人が睨み



つけていたとしたら、ドキッとしてストレスとなり、それは「脅威」となります。しかし、やさしげに、「もうすこし車を左に寄せてください。」というような仕事をされると、それは、もっと車を左に寄せることができるだろうか、よしやってみようという「挑戦」になるというのです。

ラグビー日本代表のエディーヘッドコーチは選手達に厳しい言葉を発するそうですが、それを「脅威」ではなく「挑戦」ととらえることができた選手が代表入りを果たしたそうです。

この著者は、ストレスを「挑戦」と受け止めることにより、注意・集中力が高まり、やる気も高まり、勇気も出ると言っていました。

私も、たった今この一年を「脅威」の一年ではなく、「挑戦」の一年しようと決意をしたところでございます。

これから、一年間、皆様にもいろいろなお願いをさせていただき、一緒に挑戦をしていただきたいと思います。

どうぞよろしくお願いいたします。



連続出席祝



ホームクラブ100%出席祝

卓 話

理事役員就任挨拶

会長エレクト・副会長 松野 正信

高尾会長は46歳で当クラブ最年少の会長です。司法書士会の会長もされており、大変お忙しい1年となります。全会員と一緒に協力して会長を支えたいと思います。



理事役員就任挨拶

財団委員長 河内 正晴

財団委員長の河内でございます。
22年間に何回目の委員長か……。再度担当させていただきます。

今年はロータリー財団創立100周年です。

R1財団も記念行事が行われる予定ですが、当クラブも特別のイベント、新プロジェクトの発足実行したいと考えておりますので全会員の皆様の更なるご協力宜しくお願い致します。



- | | | |
|--------------|-------|----|
| 会員組織常任理事 | 吉野 篤敬 | 会員 |
| クラブ管理運営常任理事 | 下向 繁美 | 会員 |
| 広報常任理事 | 清水 理也 | 会員 |
| 奉仕プロジェクト常任理事 | 渡邊 英晶 | 会員 |
| S.A.A.委員長 | 山根 達則 | 会員 |
| 会計委員長 | 松浦 光男 | 会員 |
| 副幹事 | 川口 哲司 | 会員 |
| 副幹事 | 二村 一弘 | 会員 |
| 幹事 | 松本 猛 | 会員 |

第 907 回 広島サンプラザ 2016年7月11日

会長時間

理事会報告

副会長 松野 正信



結婚祝

卓 話

決算予算報告

新旧会計委員長 松浦 光男 会員



第 908 回 広島サンプラザ 2016年7月25日

会長時間

会長 高尾 昌二



卓 話

陣幕久五郎と相撲甚句

尾道陣幕久五郎会

副会長 松本 勝彦 様



貴クラブ例会開催にあたりましては貴重な時間をいただきありがとうございます。あらためてお礼を申し述べます。

幕末に活躍した横綱が尾道にゆかりがあることや相撲甚句の楽しさをより多くの皆様を知っていただけたら大変幸いです。

1 陣幕久五郎

陣幕久五郎は1829年出雲の国の生まれ。若くして力士を目指し、1847年19歳のとき尾道の土地相撲の力士初汐久五郎の弟子となり大坂相撲を経て後に第12代の横綱になりました。陣幕は現役の間一度も「待った」をしたことがなく、筋肉質で幕末随一の強豪力士だったと言われています。信仰心が厚く、全国の神社仏閣に碑を寄進したことで知られていて、「建碑狂」とさえ言われました。なかでも有名なのが東京深川富岡八幡宮に現存する「横綱力士碑」です。陣幕は1903年・明治36年、74歳で没し尾道市の光明寺には特徴だった白髭が納められています。光明寺の墓碑の傍らには相撲道の極意を詠んだ陣幕の句碑が立っています。
「受けながら 風の押手を 柳かな」

「尾道陣幕久五郎会」は尾道市制100周年記念行事として1998年・平成10年に大相撲尾道場所が開催されたのを機に発足しました。

2 相撲甚句

相撲甚句は江戸享保の頃から唄われました。大相撲地方巡業の際、各地の七七五調の民謡を相撲独特の同じ節回して楽器を使わず「はやし方」の「アードスコイドスコイ」や「ハイ」「ホイ」の掛け声で唄うものです。地方巡業では力士5、6人が土俵上で輪になりそのうちの一人が真ん中に立って唄います。「当地興行」という題名の甚句は巡業を終え当地を去る力士たちが締めくくりのお別れの挨拶をする哀感のこもった唄で名曲中の名曲と言われています。

本日はせっかくの機会ですのでこの「当地興行」をはじめ代表的な唄をご披露させていただきます。

第 909 回 広島サンプラザ 2016年8月1日

会長時間

会長 高尾 昌二

卓 話

「会員増強月間に困んで」

会員組織常任副委員長
有田 伸治 会員

「ポケモンGoの社会現象と経済効果」



松本 猛 会員

第 910 回 ゾーナイタリア 2016年8月5日

家族同伴夜間例会



第 911 回 広島サンプラザ 2016年8月22日

会長時間

理事会報告

副会長 松野 正信



結婚祝

卓 話

「基隆市教育視察で学んだこと」

廿日市市教育長 奥 典道 様

平成28年7月20日から22日、基隆市を訪問し教育講演を行うとともに教育施設を視察する貴重な機会を得ました。

基隆市は、人口約37万人、面積約132km²（廿日市市489km²）です。台湾で2番目の貨物取扱量を誇る基隆港を抱える重要拠点です。



教育精緻化セミナーでの講演

このセミナーは基隆市が校長、教員、大学関係者等を対象として少子化の問題に伴う教育の精密化、教育の国際化、質の向上を目指して行われたものです。

私は、講演において、廿日市市の自然、文化、観光、特産物等を紹介するとともに、市内学校の授業改革、小中一貫教育、職場体験学習、学校支援地域本部事業、つながり支援プロジェクト、組織的な学校づくりなど



について話をしました。講演会の参加者は、特に、教員の勤務時間、不登校、スクールソーシャルワーカー、協働学習などに関心を示していました。また、少子化問題は共通課題であり、それに伴う教育の質の改善は喫緊のテーマであると受け止めました。

中正国民中学の訪問

学校で重視している「民俗芸芸」を観ました。表情豊かに、終始笑顔で難しい演技を行う姿に圧倒されました。縄跳びのスピードの速さ、こま回しのスリリングなプレイに拍手喝采です。応援者の大きな声援も素晴らしく、伝統芸術を継承発展させようとする熱意を強く感じました。



吹奏楽部の演奏も聴きました。日本になじみのある曲を用意するなどその心遣いにも感動しました。迫力ある演奏であったことや男子部員が多いと感じたことなどをコメントしましたが、生徒はうなずきながら聞いており素直で優しい生徒たちであると実感しました。

「閲読教育」というらしいが、読書に力を入れているとのこと。ゆったりとした空間づくりや蔵書の配列にも工夫が見られました。

校長や主任の先生と話す機会がありましたが、校長の悩みは、「先生方も多様な個性を有しており、一人一人の考えを聞き学校経営を行うこと」と話しておられました。どの国においても職員との対話を重視した組織力のアップが重要なテーマであることは間違いなく感じたところです。

PTAの方々との懇親の場もありました。男性ばかりでしたが、子どもたちのためなら何でも学校に協力するとのこと。子どもや学校のことを笑顔で話していましたがここにも台湾のよき姿を見ました。



海洋博物館の見学

海の環境を保全することに大変に意欲的であると感じました。海洋国であるというだけでなく世界規模での環境の保全に力を注ごうとしているようです。特に、子どもたちにとって、体験的に環境学習を行うことができる施設であり、夏休み期間中のため、多くの見学者がいたことにも注目しました。

親日を実感

学校を訪問した際にも、また、関係者からお話を伺った際にも日本に対して極めて好意的・友好的であることを実感しました。また、日本を訪問しもっとその良さに触れたいと声も多く聞きました。これを機に台日の交流が深まることを願っています。そして、国際比較においても高いレベルにある台湾の教育についてもっと知りたいと感じた次第です。



活動報告

水保全活動 御手洗川清掃
2016年8月7日

